

音楽入手行動に関する心理的要因の調査研究

廣瀬 亮輔

違法ダウンロードの蔓延や音楽の売上の減少が問題となっている音楽業界。しかし、これまで違法ダウンロードについては日本での研究がほとんどなく、CDの購入についても十分な研究はなされていなかった。本研究では、それぞれの入手行動に至る心理を明らかにし、違法ダウンロードを減らすための施策や音楽を購入してもらうためにすべきことを考えるため、①音楽入手時における商品特性の重要度、②音楽に対する消費者特性、③物質主義、④違法ダウンロードにおける道徳判断、を計測する尺度を用いた質問紙調査を行い、検討した。

その結果、違法ダウンロードの頻度には音楽入手時の著作権の重要度が正の有意傾向となり、道徳判断は有意な影響を与えなかった。そのため、違法ダウンロードを減らすためには「道徳的に悪い」ことよりも「著作権的に悪い」ことをメッセージとして消費者に訴えかけることが有益であることが分かった。

また、CDの購入経験には「音楽が好きかどうか」や道徳判断が正の影響を与えるため、楽曲やアーティストに興味を持ってもらい、好きになってもらうことや「違法ダウンロードは道徳的に悪いことだ」と示すことがCDの購入意欲につながるということが分かった。さらに、音楽入手時に質を重視する人ほどCDの購入頻度が増えることが分かった一方、種類の豊富さを重視する人ほどCDの購入頻度が減ることが分かった。

「贅沢をしたい」「モノを買うことが好きだ」という心理が違法ダウンロードとCDの購入のいずれにも正の影響を及ぼしていた。モノを買うことが好きであることが違法ダウンロード行為に正の影響を及ぼすことは一見矛盾しているが、衝動買いなどのアクティブな消費者行動が違法ダウンロード行為と共通の心理を持っている可能性や、購入意欲の方向性が音楽かそれ以外かで弁別できていなかったことなどが原因と考えられる。そのため、アクティブな消費者行動に至る心理が違法ダウンロードに影響するかどうかを調べたり、購入意欲のベクトルを弁別できる尺度で研究を行ったりすることで、より詳細な結果が得られると考えられる。

本研究では違法ダウンロードとCDの購入に焦点を当てたが、現在はサブスクリプションのサービスで音楽をダウンロードしたり、ライブやフェスなど生で音楽を聴いたりするなど、さまざまな音楽の入手手段が存在している。また、本研究では項目数の都合割愛した消費者心理の尺度や、音楽経験の有無、音楽ジャンルの好みといった個人特性をより詳しく調査することも求められるだろう。そのため、今後は他の音楽聴取手段について同様の、より深い消費者研究がなされることで、変化を遂げると推測される音楽業界の発展の一助となる結果が得られることを期待する。(社会心理学)